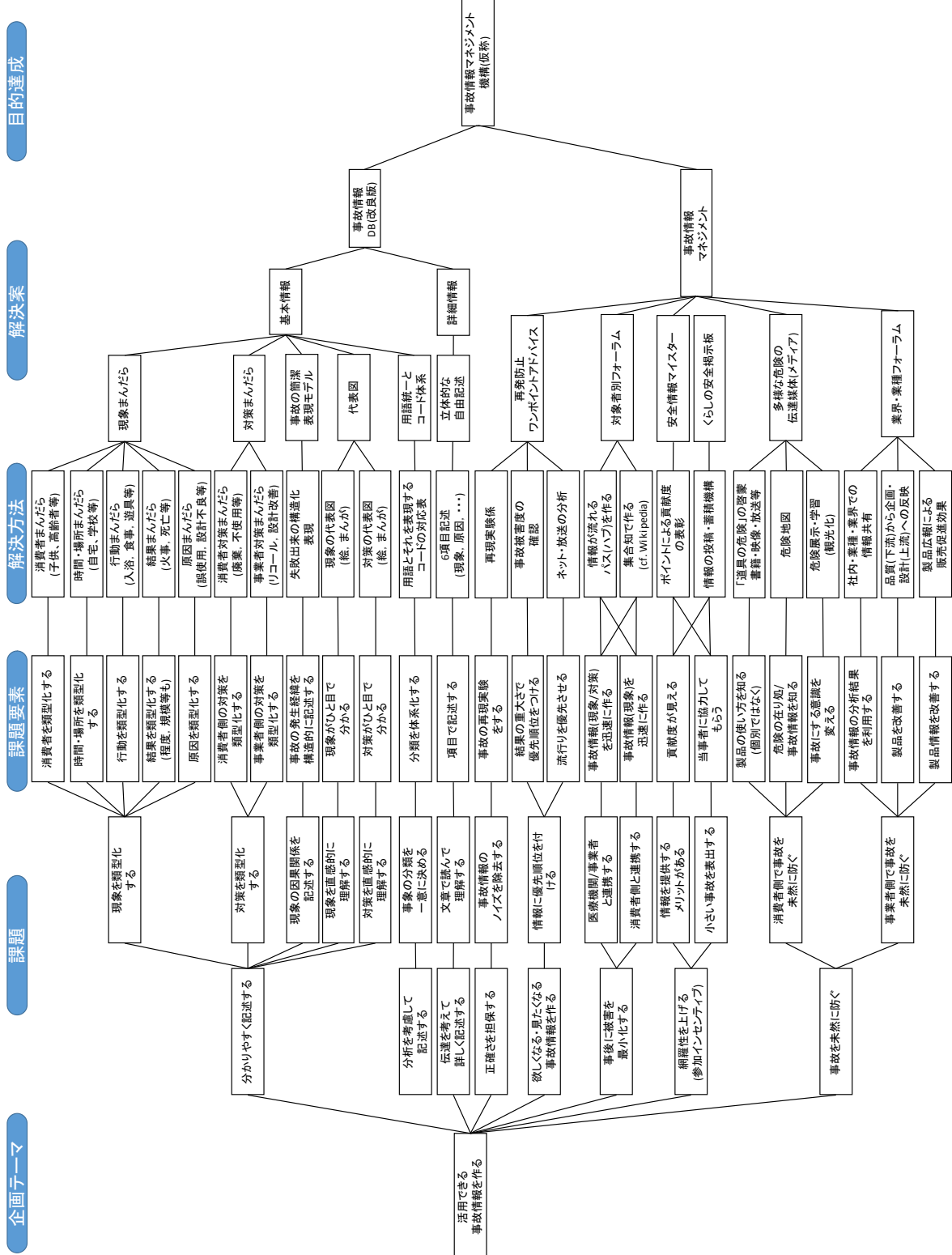
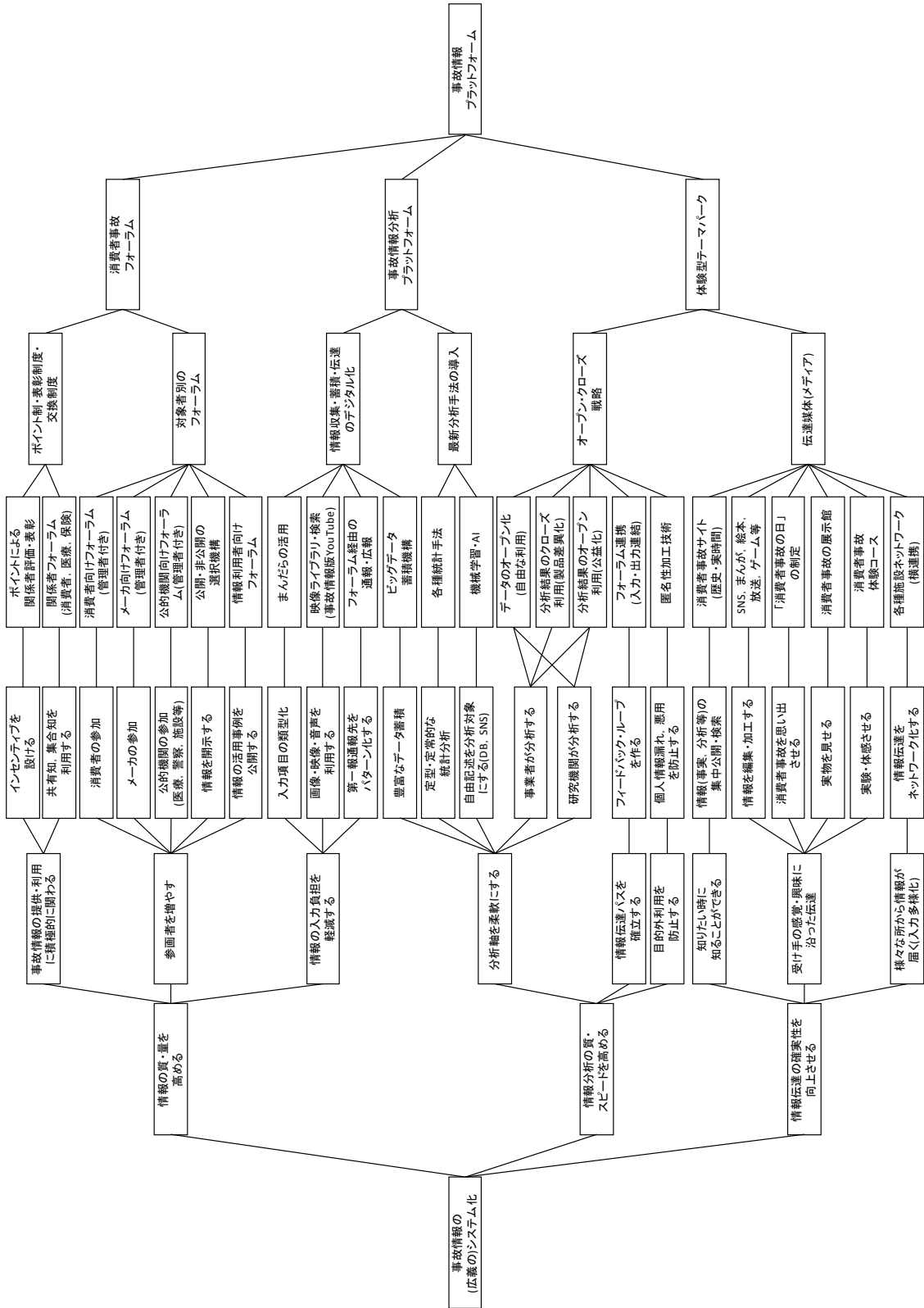
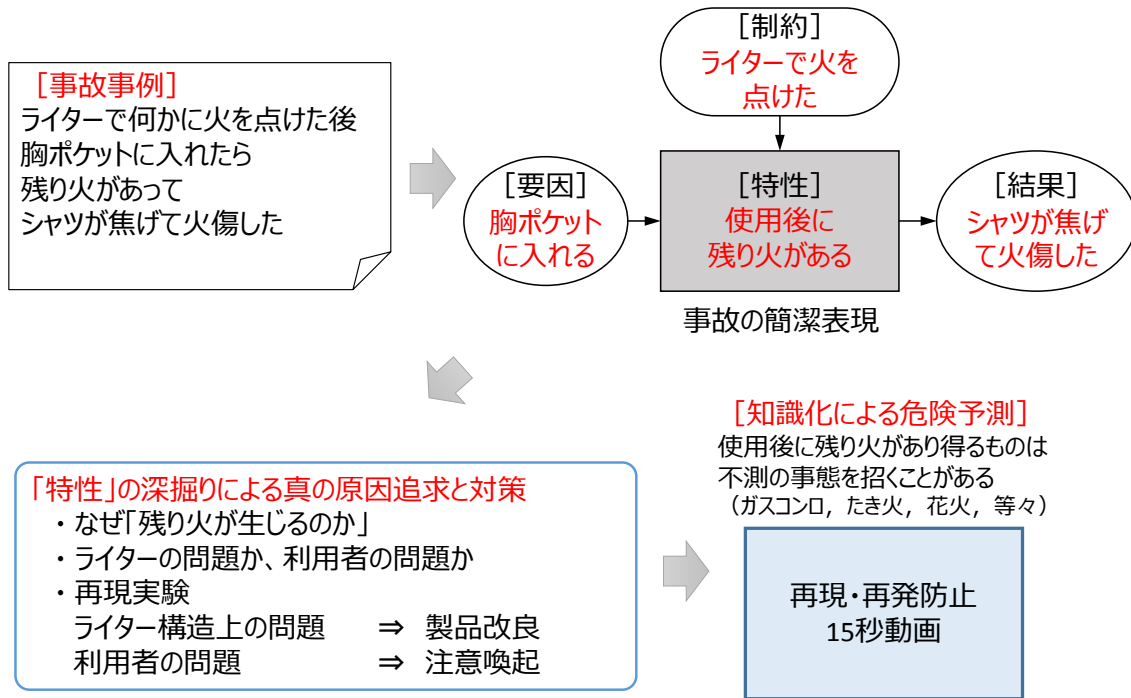


# 【添付資料-1】「思考展開図」

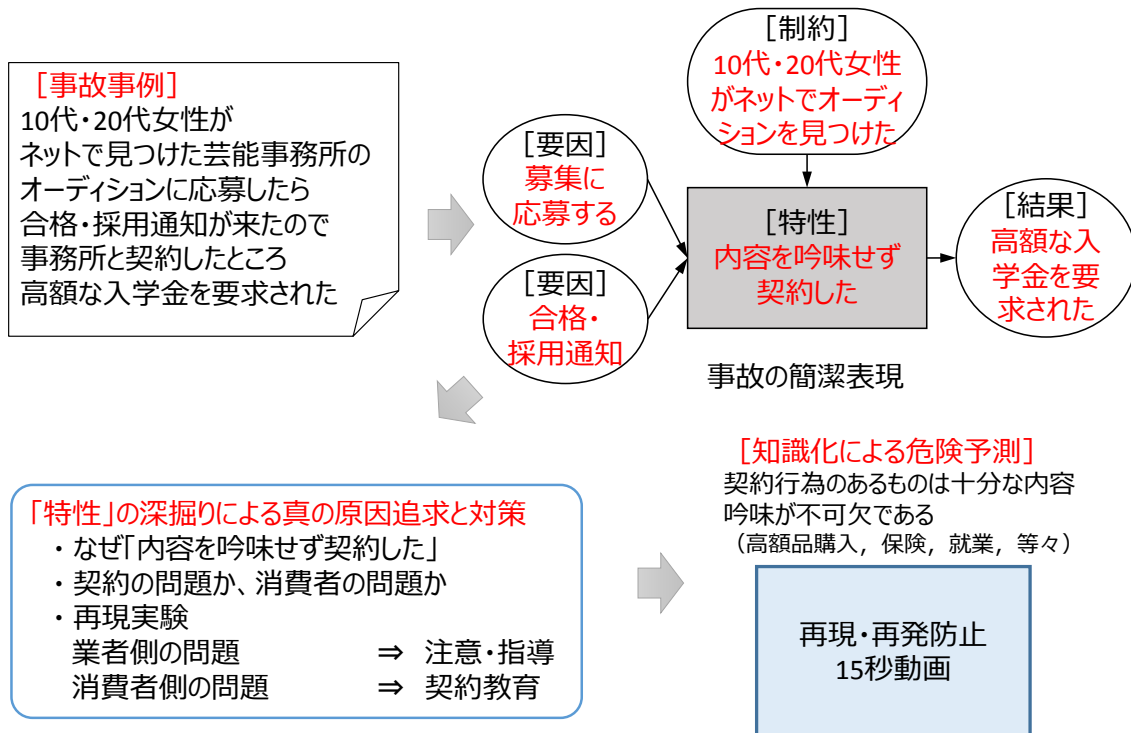




【添付資料－２】「ライターの残り火事故」事例



【添付資料－３】「10代・20代の契約トラブル」事例



## 消費者事故フォーラム

### くらしの安全についてみんなで考える

安心して生活するためには、くらしにおける事故（たとえば、電化製品を使っていてケガをすることなど）を防ぐことや、事故が起きた場合にどうすれば良いかを知っていることはとても大切です。

くらしにおける事故を含む、事故に関する情報については、消費者庁が「事故情報データバンク」で公開していますが、みなさんにとってあまり身近なものではないと思います。

そこで、みなさんにとって、事故情報データバンクをより身近なものとするため、消費者、事業者、行政機関が集まり、“より使いやすい事故情報データバンクを目指して”をテーマとするフォーラムを開催します。

### みんなで話し合うことで、

消費者のみなさんは、

- ・事故に遭わないために大切なことを学べます。
- ・事業者や行政機関に、自分の希望を直接伝えることができます。
- ・事業者や行政機関に疑問に思っていることなどを直接聞くことができます。

事業者のみなさんは、

- ・消費者、行政機関の声を直接聞くことができます。
- ・製品を使う時に気を付けて欲しいことを伝えることができます。

行政機関は、

- ・事故が起きた時の注意点などをお伝えすることができます。
- ・消費者、事業者の声を直接聞くことができます。

## 議事次第

### 【第一部】

以下の4つのグループに分かれて、事故情報データベースの利用状況、事故情報データベースの在り方などについて、ディスカッションを行います。

- (1) 消費者、消費者団体
- (2) 事業者、事業者団体
- (3) 事故分析機関
- (4) 行政機関

### 【第二部】

第一部のディスカッションを踏まえて、4つのグループが「より使いやすい事故情報データベースを目指すために必要なこと」などについてディスカッションを行います。

日時：平成 年 月 日

場所：

主催：〇〇、□□

## 消費者事故の体験型テーマパーク

### くらしの事故を分かりやすくお伝えします

くらしの事故（たとえば、電化製品を使っているケガをすることなど）に関する情報は、行政機関、事業者など、さまざまな主体が発信しています。

しかし、こうした事故の情報は、安心して暮らすためにはとても大切なものですが、なかなか身近に感じられないので、消費者の皆さんに必ずしも十分に伝わっていないのではないのでしょうか？

そのため、事故に関する情報を子どもから大人まで分かりやすくお伝えするための仕組みを作りました！

#### 1 事故を身近に

##### ○事故展示室

「どんな事故が起こっているのか？どんなときに事故は起こっているのか？」、事故って意外と身近にあるかも。

##### ○事故実験室

「事故ってなんで起きるんだろう？」安全な環境で事故を再現して、事故が起きる仕組みを知ろう。

##### ○事故体験コース（VR等）

「事故が起きたらどうなるんだろう？」いろんな事故を実際に体験して、もし事故が起きても落ち着いて対応できるようになろう。

## 2 事故をテーマごとに知る

[場所別]	[道具別]	[原因別]
○家庭	○自転車	○火
○幼稚園・学校	○自動車	○刃物
○通勤・通学路	○電車	○電気
○街中	○日用品	○重量
○遊園地	○電気製品	○回転力
○野外・道路	○衣服	○尖端

## 3 事故を分かりやすく

### ○マンガ(小学生以上)

事故に遭わないように、また、万が一事故に遭ったらどうすれば良いのか、マンガで分かりやすく教えます！

### ○絵本(園児など)

小さい子供も事故とは無関係ではられません。事故に遭わないために大切なことを絵本にしました！

### ○ゲーム

事故に遭わないように、事故を起こさないために大事なことをゲームを通じて学べるようにしました！

## 参加機関など

・ ○○、□□